

第 68 回春季東北地区高等学校野球宮城県大会 感染予防対策ガイドライン

令和 3 年 4 月 1 6 日
宮城県高等学校野球連盟

1. 開催中止の判断

- ① 政府または県からの「緊急事態宣言」が発令された場合は中止とする。
- ② 宮城県教育委員会や仙台市教育委員会から、部活動の大会自粛の指示が出た場合は中止とする。
- ③ 大会が中止された場合の東北大会出場校は、秋季上位大会の上位 2 校を原則とする。
- ④ 大会前、大会中に関係者から感染者が発生した場合は、日本高野連が策定した対応表に沿って、次の通りとする。

	感染者が発生した場合の対応	濃厚接触者（家族や職場などで感染者が出た）となった場合の対応
大会役員 審判委員	感染者以外の大会役員、審判委員が感染者とどのような接触歴があったかを確認する。濃厚接触者の場合は判明日から 2 週間は自宅待機とし、別の大会役員、審判委員が運営にあたる。	当該者は 2 週間の自宅待機とする。 2 週間経過後、高熱などの症状が出なかった場合は復帰可能とする。
指導者 部員	感染者以外の濃厚接触者の行動歴を割り出す。感染者以外の指導者、部員は基本的に濃厚接触者になると思われるため、参加校は試合への参加を自粛する。	濃厚接触者は 2 週間の自宅待機とする。 それ以外の指導者、部員で試合に参加できる。

2. 来場者の健康管理

- ① 検温と健康観察を継続して行うこと。また 2 週間前からの行動歴（いつ、どこに行き、誰と会ったか）を記録しておく。
- ② 大会参加について、保護者の同意を得てから「証明書」と「選手資格証明書」を作成し、同意の得られない生徒は大会には参加・引率しない。
- ③ 大会 2 週間前より、高熱が発生した選手がいた場合は、練習に参加させず医療機関での受診を勧める等の措置をとる。
- ④ 厚生労働省が開発した新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の登録を推奨する。
- ⑤ 有観客とした場合には、入場者に氏名・連絡先の記入をお願いし、体温検査実施の協力をいただく。検温の結果、37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りする。

3. 抽選会・開会式・閉会式

- ① 地区予選は行わず、全県一斉のトーナメント戦で大会を実施する。
- ② 県大会の抽選会は 4 月 2 3 日（金）に行う。抽選者は学校の顧問または主将とする。抽選会後に運営委員会を開催し、1・2 回戦の日程・球場を割り当て、移動距離が最小限となるよう考慮し、宿泊を伴わないように配慮する。
- ③ 秋季上位大会の結果を踏まえて、第 1 シードを仙台育英、第 2 シードを柴田、第 3 シードを東

北、第4シードを古川学園、秋季県大会ベスト8（東陵、仙台第一、角田、仙台第三）を第5シードとする。出場チームが63校の時は第1シードを1回戦不戦とする。

- ④ 大会期間中の選手変更を認める。試合当日に選手変更願（原本との相違を確認するため）を持参すること。提出された選手変更願は当日のみの有効とする。
- ⑤ 2試合開催の場合は9時と13時、3試合日は8時半と11時半と14時半とし、球場に多くの部員が密集しないように配慮する。前の試合が早く試合終了しても、2試合目の試合開始を早めず45分以上の間隔をとって行う。2・3試合目のベンチ入りはベンチの消毒完了後とする。また、試合前の立ち会いの時間はそれぞれ試合開始の1時間前とする。
- ⑥ 県大会の開会式は行わない。閉会式は簡略化して実施する。
- ⑦ 大会期間中の練習試合について、当日公式戦のない日であれば許容する。

4. 選手の移動・宿泊等

- ① 送迎バスを利用する場合は、除菌や換気を行い、座席間隔を空けて着席するなど感染防止対策を講じる。
- ② やむを得ず宿泊を伴う場合は、個室や食事の個別提供が可能な宿泊場所とし、宮城県高野連宛に事前に連絡する。また、不要不急の外出は自粛してもらう。
- ③ 選手の昼食については、密集・密閉した場所（バス内など）を避け、移動前または移動後に解放された場所で各自とるように努める。

5. 試合

- ① チーム毎にマスク着用を励行し、手指消毒を行う等の感染予防に努める。
- ② 道具については試合前後の除菌消毒を徹底する。なお、ヘルメットに関してはSGマークのついた破損していないものであれば、多少の違いを認める。
- ③ 飲料水やタオル等は個人専用とし、共用で使用するジャグ・カップ等は使用しない。
- ④ 円陣を組んでのミーティングや試合前後の挨拶を禁止する。タイムをかけて話し合う場面では、グラブで口を覆ったり、対面で話すことがないように工夫する。また、ハイタッチ等の接触を伴う行為は自粛する。
- ⑤ 試合後の校歌斉唱は適度な間隔を保った上で行う。
- ⑥ 試合前後の挨拶は、発声を自粛し一礼のみとする。
- ⑦ シートロック後、5回終了時、試合後のグラウンド整備は当該校で行う。
- ⑧ 試合後は、ベンチ内の除菌作業を責任教師同席のもと当該校で行う。
- ⑨ 審判が4人制でない場合もある。
- ⑩ 新入生のユニフォームが間に合わない場合は、白ユニフォームでの参加を認める。

6. 応援・観戦

- ① 県大会期間中は無観客試合を原則とする。来場できるのは、加盟登録された選手、マネージャー、指導者、選手の家族（部員1名につき原則2名）、学校教職員、アルバム写真業者のみとする。チーム関係者からは事前に「入場申請書」を試合毎に作成し球場受付で提出してもらい、入場を認める。入場者は検温と手指消毒を徹底する。
- ② 県大会3回戦（ベスト16）以降は、入場者からの（1）個人情報（氏名・住所・電話番号）の提

供、または(2)新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の登録、を確認し、検温・手指消毒を行った上で、入場料(大人600円、シニア300円)をいただいて入場を許可する。ただし、仙台市民球場(3,000人)、石巻市民球場(内野700人、外野2300人)、鹿島台中央野球場(内野300人、外野1000人)の入場制限を設ける。提供された個人情報は感染が確認された場合の、追跡調査のみに使用する。ただし、今後の感染状況によっては無観客試合となることもあり得る。

- ③ 入場者は、スタンドで両手が届かない間隔を空けて試合を観戦する。声を出しての応援は自粛し、拍手やメガホンをたたく行為のみとする。ハイタッチや座席の上に立ったり、一カ所に集まる行為、タオルを回す行為がないように事前告知を行う。
- ④ チームとして太鼓1個の持ち込みを許容する(名取市民球場を除く)。

7. 報道への対応

- ① 報道各社には、1社1球場あたりの取材者人数を限定し、報道受付で入場申請書を記入した後は、原則スタンドで取材を行う。大会本部には報道席を設けない。
- ② 試合前の選手や監督への取材は禁止する。また、試合後の取材については、各チーム1名以内の指名選手を大会本部で取りまとめ、各校の責任教師の了解を得た後5分以内で行う。指名選手以外の取材は禁止する。
- ③ 大会前の参加校への取材については原則禁止する。取材の必要がある場合は、責任教師を通じて各学校長の許可を得たのち実施する。

8. 大会運営

- ① 県大会を運営するにあたり、各チームから参加費10,000円を集め、大会の諸費用にあてる。
- ② 県大会1・2回戦では、各チームからボール3球、ロジン1個を持ち寄ることとする(コロナ感染が収束せず、全ての試合が無観客試合となった場合はこの限りではない)。
- ③ 運営委員も事前に検温を済ませ、手指消毒を徹底する。大会本部は密集を避ける工夫を施し、パソコンやアナウンスマイク等は使用者が代わる度に消毒する。
- ④ 場内アナウンスやSBOに関しては、両校のマネージャーの協力が得られない場合は運営委員が行う。運営委員不足により場内アナウンスがない場合もある。
- ⑤ 1回戦より運営委員による「一球速報」を導入する。運営委員不足の場合は、イニング速報を行う。
- ⑥ 選手の健康管理のため、球数制限の運用を行う。試合前に投球実績表を責任教師に配付し、球数を確認し、1週間内に500球を越えないように選手の健康管理に努める。関節機能検査については、医療関係者と調整を行い、可能な限り実施する。
- ⑦ 大会中、本部に看護師を常駐させるよう努める。来場者の中に発熱や体調不良など感染が疑われる人が出た場合は検温を行い、疑いがあるようであれば保健所の電話相談窓口に連絡して指示を受ける。
- ⑧ 審判員も事前に検温を済ませ、手指消毒を徹底する。審判員への給水は審判団に依頼する。感染予防のため、タオル提供は行わない。
- ⑨ 少年野球・特別支援学校の始球式に関しては中止する。